

小型高性能スピーカの開発について； 2016年8月

2008年まで、サウンドサイエンスは、信号処理の範囲で、与えられた環境下で音質を作る仕事をしてきました。しかし、音質の限界性能はスピーカによって決まることから、音質仕上げをする度ごとに、スピーカのあるべき姿、というものを実感しておりました。

市場に、携帯端末器が浸透しつつある中で、おりしも、小型高性能スピーカシステムの開発の機会があって、開発しつくされた、と思われるスピーカ設計の世界 に入ることになりました。その理由は、これまでの音質仕上げの仕事の中で見つけた、スピーカ振動の奇妙な性質、ボイスコイルが動かずにコーンが動いている現象、これをうまく利用できそうに思えたからです。

| 段階 | 年 | 経緯 |
|------|------|--|
| 第1段階 | 2008 | S社マレーシャから、液晶TV用小型高性能スピーカ&信号処理開発の依頼 |
| 第2段階 | 2010 | 液晶TV用BARU型小型スピーカシステム発売 {信号処理DSP DRD-GFs 同時発売} |
| 第3段階 | 2013 | BARU型スピーカをさらに小型高性能化 {黒檀六角、黒檀八角、竹}スピーカ発売 |
| 第4段階 | 2013 | 小型超高効率低音再生スピーカ開発完了 {量産には至っていない} |
| 第5段階 | 2013 | カーオーディオダブルエッジ型小型高性能スピーカのカーオーディオへの応用基本設計完了 |
| 第6段階 | 2014 | 車メーカーに、ダブルエッジ型小型高性能スピーカを小型乗用車に搭載しデモ |
| 第7段階 | 2015 | 車メーカーに、改善したダブルエッジ型小型高性能スピーカを小型乗用車に搭載しデモ |
| 第8段階 | 2016 | 9月、さらに改善した、小型乗用車用小型軽量高性能スピーカ と 信号処理 {ロードノイズに対応した最適音質音量制御、アナウンス用高明瞭度音質自動制御} |